

苗場山麓ジオパーク学術研究実施報告書（鑑文）

平成 30 年 1 月 4 日

団体名（所属） 近畿大学農学部環境管理学専攻
水圏生態研究室

代表者名（氏名）森下 来美

1 研究の名称

苗場山麓ジオパーク周辺水域における魚類を中心とした水生生物調査

2 研究のテーマ

苗場山麓ジオパーク周辺水域における魚類を中心とした水生生物の分布について

3 調査・研究等の日程と概要（調査区域や地点・調査方法など）

※これまでの実績と今後の予定

日程	主な調査・研究等の概要
平成 28 年 8 月 3 日 ～	ジオパーク内の南部地域で 8 箇所のため池および水路内で網モンドリ・たも網を用いた魚類採集を行った。また採集時に目視などで観察された生物も記録した。
平成 28 年 8 月 6 日	今年度の調査ではニッコウイワナ 6 個体とカジカ大卵型 1 個体確認された。魚類以外ではハコネサンショウウオとタカチホヘビ、トワダカワゲラがみられた。また 8 月 5 日の観察会ではイワナ・メダカ・ドジョウ、トンボ類やカエル類が数多くみられた。

4 調査・研究結果（概要）

苗場山麓ジオパークのため池群を対象に、2015-2016 年度同様魚類相調査を実施した。

今年度は主に南部に当たる地域を中心に 8 ヶ所でモンドリとたも網を用いた結果、魚類はニッコウイワナとカジカ大卵型が確認された。また、その他にはハコネサンショウウオや新潟県絶滅危惧種のタカチホヘビといった両棲類・爬虫類も確認された。8 月 5 日の観察会では船津川でイワナ・メダカ・アブラハヤ・ドジョウが生息していることが分かった。

3 年間の調査から津南町全体のシナイモツゴは、信濃川北部と中津川東岸に生息し、西部ではモツゴの侵入により絶滅、南部にはもとより生息していないと考えられる。

また調査を通し、本地域の水源水系管理・土地利用方針が結果的に魚類・水生昆虫・鳥類・両棲爬虫類すべての保全に深く結びつき、他地域では少なくなった生物が現在もたくさんみられる要因になっているのではないかと感じた。

今後、水圏生態の全容把握には詳細な定量調査や季節を含めた経過観察、さらに魚類以外の水生生物の調査も必要である。

本研究にあたり、苗場山麓ジオパーク振興局佐藤 信之様、瀧澤美樹 様をはじめとする苗場山麓ジオパーク事務局、「なじよもん」スタッフの皆様には、多大なご協力をいただいた。

また、本研究は苗場山麓ジオパーク学術研究奨励事業の助成により遂行された。ここで深く感謝の意を表す。

（研究参加者）

近畿大学大学院農学研究科環境管理学専攻

博士前期課程一年 森下来美

近畿大学大学院農学研究科教授 細谷和海

（「なじよもん」調査研究ボランティア？） 村山郁夫

※調査・研究結果がわかる資料を添付してください。